

Relationship between sound lateralization abilities and laterality index by Behavioral Inattention Test in unilateral spatial neglect patients

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Sunahara, Nobuyuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19464

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1723 号

学籍番号 _____

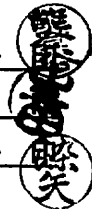
氏名 砂原 伸行 _____

論文審査員

主査(職名)(教授) 能登谷 晶子

副査(職名)(教授) 生田 宗博

副査(職名)(教授) 染矢 富士子



論文題目 Relationship between sound lateralization abilities and laterality index by Behavioral Inattention Test in unilateral spatial neglect patients

論文審査結果

半側空間無視とは、大脳半球の対側の刺激に反応せず、またそちらを向こうとしない症状である。大部分は右半球損傷後におこる左半側無視として現われ、右半球損傷後の例の40%にも見られるとも言われ、日常生活動作訓練のリハビリテーションの現場でもしばしば経験する高次脳機能障害である。

本研究は従来この半側空間無視が視覚経路を用いての研究が大部分を占めているのに比し、近年少しずつ報告されつつある半側空間無視における聴覚系の障害にテーマをおいたものである。聴覚課題としてリオン製の音の方向感検査装置を用いて、左右の時間差音像移動弁別閾値を測定し、右の閾値を基準として左の閾値の増大率、すなわち閾値の左右比を算出した。Laterality index とは、BIT (日本語版行動性無視検査) 下位項目の誤り反応の左右分布をあらわす指標である。BIT は主に半側空間無視例の視覚課題を評価するものである。以上の課題を36名の半側空間無視例について施行した結果、聴覚性課題の閾値の左右比とBIT下位検査におけるLaterality indexとのいずれとの間にも有意な相関が見られなかった。以上より、半側空間無視患者では、左右それぞれの空間における刺激に対する反応の違いから算出した場合、その成績の程度は聴覚、視覚の両課題間で必ずしも一致しないことがわかった。すなわち、本研究結果から半側空間無視の現象は、視覚、聴覚という感覚様式の違いによって、その障害の程度が異なることを示すことがわかり、より効果的なリハビリテーションの可能性が示唆され、博士論文に値する意義ある研究である。